

府中市ふるさとボックス開発プロジェクト
～府中の「食」を広めよう～

日 時 令和3年10月1日（金） 5校時
場 所 センターホール
学 級 第5学年2組（32名）

1 単元のデザイン

本単元の目標

地域の農作物を育てたりよさを調べたりする活動を通して、地域の農作物は生産者の思いや地域の特徴と深くかかわっていることを理解し、地域活性化の視点から、自分たちと地域の農作物との関わり方について考えるとともに、自分で学習計画を調整しながら粘り強く学ぼうとすることができるようになる。

単元観

「食」とは人間が生きる上で必要な営みである。農林水産省の「食育の推進」のHPによると、「食育は生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる人間を育てること」と定義されている。本単元は、地域の生産者や地域の農作物を生かした地域活性化に取り組んでいる人々の思いや願いに気づき、地域の農作物を広めるために自分たちができることを考え、地域の「食」に関わる人に感謝して生活し、地域の一員として進んで行動することができるようにすることをねらいとしている。本単元で主に扱う「諸田のごんぼう」は、広島三大ごぼうの一つといわれ、赤土や寒暖差といった地形や気候の特色を生かして香りがよく噛み応えのあるものが生産されている。「マロン南瓜」も寒暖差といった気候の特色を生かし、糖度の高いものが生産されている。しかし、第5次府中市総合計画によれば、農業従事者が減少しているという課題がある。そこで農業の安定的で持続可能な経営に向けて高付加価値産品のさらなる産地化が進められている。

本単元と実生活との関わり

本単元の学習を通して、児童は地元の農作物のよさを知り広めていこうとする。また、生産者の方への感謝の気持ちをもち、残さず食べる姿が期待される。さらに買い物の際、地元の農作物を進んで選ぶようになることが期待できる。

また本単元は、世界的に広く取り組まれている、SDGsの「12 つくる責任 つかう責任」と関連している。そのため、社会的な問題にも関心を高めることができる。

児童生徒観

意識調査の結果は以下の通りである。

資質・能力	内容	肯定的評価
課	授業では、自分で課題を設定しています。	67%
課	授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしています。	76%
課	授業では情報を比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見つめたり（関係付け）して何が分かるのか考えています。	73%
課	授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	53%
コ	授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	80%
粘	授業では、課題の解決に向けて、途中であきらめず、最後まで取り組んでいます。	86%
自	授業では、学習の進み具合を見て、学習計画を見直しています。	76%

以上の結果から、本学級の児童の課題は3点ある。1点目は自ら課題を設定することである。この原因として、活動の見通しがもてず、受け身での学習が習慣化していることが考えられる。2点目は、集めた情報を整理・分析することである。この原因として、情報の整理の仕方や分析の仕方の指導が不十分であったことが考えられる。3点目は、相手意識をもって自分の考えを分かりやすく伝えることである。この原因として、分かったことや考えたことを相手に分かりやすく表現する活動を十分に設定できていなかったことが考えられる。

指導観

- 実際に農作物を育てたり，地域の生産者や JA の方から話を聞いたりすることで，地域で育てられる農作物に対する親しみをもったり農作物をめぐる現状や課題を把握した上で課題意識をもったりすることができるようにする。
- 児童が見通しをもち，主体的に活動に取り組むことができるように各自で学習の計画（学びゲット）を立てさせる。
- 集めた情報を視覚的に分かりやすく整理・分析できるように ICT や思考ツールを活用すると共に，整理した情報から何が分かるのかを考えさせる。
- 相手意識をもって分かりやすく表現することができるよう国語科やことば探究科で学んだことを生かして，表現させたり発表させたりする。

2 本校の資質・能力と本単元との関わり

学習指導要領に示す目標や内容	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等		
本校	知識及び技能	課題発見・解決力	コミュニケーション能力	粘り強く学習に取り組む態度	自己調整力
本単元	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農作物のよさを理解する。 ・自分の考えを相手や目的に応じて分かりやすく説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業に関わる人の思いや願いから課題を見つける。 ・ICT やインタビュー等様々な方法で情報収集する。 ・思考ツールを使って，情報を整理・分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他のよさを生かしながら友達と協働的に地域活性化に向けた活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で設定した課題に粘り強く取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けた取組の状況や成果を振り返ったり，学習計画を修正したりする。

3 本単元に関わる問い

本質的な問い	単元を貫く問い（3つ）	個別の問い
地域の「食」を広めるために自分たちにできることは何か。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の代表的な農作物を他の地域の人にも知ってもらうためには，何ができるだろうか。 ・地域の代表的な農作物はどうやって育てればよいのだろうか。 ・地域の「食」をどうやって広めていけばよいのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の代表的な農作物はどのようなものがあるだろうか。 ・地域の代表的な農作物の特徴やよさは何だろうか。 ・何を伝えたら地域の「食」の活性化につながるのだろうか。

4 単元の評価規準及びルーブリック

学習指導要領 に示す目標や 内容	資質・能力 (本校)	観点	A	B	C
知識及び技能	知識及び技能	知識	「諸田のごんぼう」や、「マロン南瓜」についてのよさを生産者の思いや地形の特徴と関連付けて説明している。	「諸田のごんぼう」や、「マロン南瓜」のよさを聞かれたら答えている。	「諸田のごんぼう」や、「マロン南瓜」のよさを理解していない。
		技能	自分の考えを根拠を基に相手に分かりやすく説明している。	自分の考えを相手に分かりやすく説明している。	自分の考えを相手に分かりやすく説明していない。
		探究的な学習のよさの理解	食べ残しをしないなど、自分の意識や行動の変容は、食の問題や生産者の願い等について探究的に学んだことによる成果であると気づき、さらに深めようとしている。	食べ残しをしないなど、自分の意識や行動の変容は、食の問題や生産者の願い等について探究的に学んだことによる成果であると気付いている。	食べ残しをしないなど、自分の意識や行動の変容に気付いていない。
思考力、判断力、表現力等	課題発見・解決力	課題設定	Bに加え明確な理由をもって自分の課題を設定し、解決手段を具体的に考えて計画を立てている。	自分なりの課題を設定し、見通しをもって計画を立てている。	自分なりの課題を設定できず、見通しをもって計画を立てられていない。
		情報収集	目的に応じて、必要な情報を十分に収集している。	たくさん情報を集めている。	必要な情報を収集していない。
		整理・分析	Bに加え、さらに関連付けたり比較したりして情報を分析できる。	視点を決めて集めた情報を分類している。	視点を明確にして集めた情報を分類していない。
	まとめ・表現	Bに加え、レイアウトや構成を工夫しながら、根拠を明らかにして説明している。	相手意識をもって、自分の考えをまとめ、表現している。	自分の考えをまとめていない。	
学びに向かう力、人間性等	コミュニケーション能力	言語能力	Bに加え、情報を吟味している。	情報の内容が分かっている。	情報を読み取っていない。
	協働性	Bに加え、自他のよさを生かして協働的に探究活動に取り組んでいる。	友達や地域の人と協働して探究活動に取り組んでいる。	友達や地域の人と協働して探究活動に取り組んでいない。	
	粘り強く学習に取り組む態度	粘り強く学習に取り組む態度	上手いかわないことがあっても途中であきらめずに試行錯誤しながら、取り組もうとしている。	上手いかわないことがあっても途中であきらめずに取り組もうとしている。	上手いかわないことがあったら途中であきらめている。
	自己調整力	メタ認知	Bに加え、自分の学習計画を修正しながら活動を調整している。	自分の学習でできたことやできなかったことを振り返っている。	自分の学習でできたことやできなかったことを振り返っていない。

5 単元と評価の計画（全 60 時間）

次 (時)	学習活動	評価			
		知	思	態	評価規準（評価方法）
1-A (35)	課題の設定 ・地域の代表的な農作物について知っていることをウェブページに書き出す。 ・農家やJAの方などから、地域の農作物について思いや願いを聞く。 ・農家やJAの方の話を整理し、自分たちができることを話し合い、課題を設定する。	知		課	・「諸田のごんぼう」や、「マロン南瓜」のよさを聞かれたら答えている。 ・地域の農業に関わる人の思いや願い、現状と理想の隔たりから課題を設定し、自分なりの見通しをもって計画を立てている。 ・粘り強く学習に取り組もうとしている。 ・代表的な農作物を生かした地域活性化に向けてたくさん情報を収集している。
	府中市ふるさとボックスを開発しよう。 ・課題を解決するための学習計画を立てる。			粘	
	情報の収集 ・地域の農作物の魅力や栄養素やレシピなどについて調べる。		情		
	整理・分析 ・「レシピ」「チラシ」などのグループに分かれて収集した情報を整理・分析する。		言 整 整		
まとめ ・レシピを作成する。 ・チラシを作成する。	技	ま	協	・代表的な農作物を生かした地域活性化に向けて、相手意識をもって自分の考えをまとめ、表現している。 ・自分の考えを相手に分かりやすく説明している ・地域の活性化に向けた取組を考えたり実行したりする中で、友達や地域の人と協働して探究活動に取り組んでいる。	
振り返り ・学習を振り返る。			メ		・自分の学習でできたことやできなかったことを振り返っている。

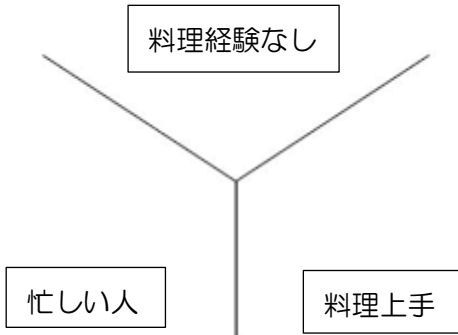
1-B (10)	課題の設定 ・自分たちでも代表的な農作物を作ってみるという課題を設定する。		課		・自分たちの思いや願いから課題を見出している。
	府中市の代表的な農作物をつくってみよう。				
	情報の収集 ・農家の人から育て方や思いを聞く。 ・農作物の育て方を調べる。 ・府中市の代表的な農作物を作る。		情	協	・代表的な農作物の育て方についてたくさん情報を収集している。 ・地域の活性化に向けた取組を考えたり実行したりする中で、友達や地域の人と協働して探究活動に取り組んでいる。
	整理・分析 まとめ ・府中市の代表的な農作物の特徴や生産者の思い、自分たちが作った経験などを整理する。		整		・収集した情報を視点を決めて分類している。
	振り返り ・学習を振り返る。			メ	・自分の学習でできたことやできなかったことを振り返っている。
2 (15)	課題の設定		課		・自分たちの思いや願いから課題を見出している。
	府中市の農作物のよさを広めるPR方法を考えよう。				
	情報の収集 整理・分析 ・PRに必要な情報を収集し、PRするための内容や方法を話し合う。		情	整	・たくさん情報を収集している。 ・収集した情報を視点を決めて分類している。
	まとめ ・PRするイベントを行う。			ま	・地域の代表的な農作物を生かした地域活性化に向けて、相手意識を持って自分の考えをまとめ、表現している。
	振り返り ・学習を振り返る。			探	・食べ残しをしないなど、自分の意識や行動の変容は、食の問題や生産者の願い等について探究的に学んだことによる成果であると気付いている。

6 本時の目標及び学習展開

(1) 本時の目標

<p>レシピグループ 自分たちのレシピ集に載せる料理の視点を決めて、分類することができる。</p> <p>チラシグループ 複数のチラシを分析する活動を通して、自分たちのチラシに載せる情報の視点を定めることができる。</p>

(2) 本時の学習展開（整理・分析1時間目）

主な学習活動	○指導上の留意点 ★評価規準，※評価方法
<p>1 学習計画と進捗状況，本時の課題を設定する。</p> <p>○学びゲットにある学習計画通り進んでいますか。今日は，何をしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レシピ集に載せる視点を決めて分類します。 ・チラシにどんな情報を載せるのか決めます。 <p>レシピグループ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ごぼうやかぼちゃのレシピを視点を決めて分類しよう。</div> <p>チラシグループ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">チラシにどんな情報を載せるのか視点を決めよう。</div>	<p>○主体的に学習に取り組むことができるよう学習状況を児童自身に把握させ，本時の見通しをもたせる。</p> <p>○本時の課題を設定させるために，ループリックを確認させる。</p>
<p>2-1（レシピグループ）</p> <p>レシピ集に載せる視点をグループで決める。</p> <p>○各グループでレシピ集に載せる料理の視点を考えましょう。</p> <p>どんな風にレシピが仲間分けされていたら分かりやすいでしょう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「料理経験なし」，「料理上手」，「忙しい人」の三つの視点で考えるのはどうか。 ・「和食」「中華料理」「洋食」の食のジャンルで分けても面白そう。 ・「おかず」「デザート」で分けてもいいんじゃない。 <div style="text-align: center;">  <pre> graph TD A[料理経験なし] --- B[] B --- C[忙しい人] B --- D[料理上手] </pre> </div>	<p>○「ごぼうレシピ」，「かぼちゃレシピ」，「ごぼうチラシ」，「かぼちゃチラシ」の4つのグループで活動させる。</p> <p>○目的に合わせて情報を整理することができるようにY(X)チャートを使って，料理を分類する視点を各グループで決めさせる。</p> <p>★情報を分類する視点を決めていく。</p> <p>※ロイロノート・スクール，行動観察</p>
<p>2-2（チラシグループ）</p> <p>既存のチラシを見てどんな情報が載っているのか分析する。</p>	<p>○チラシに書かれている情報を分析できるように，チラシの写真をロイ</p>

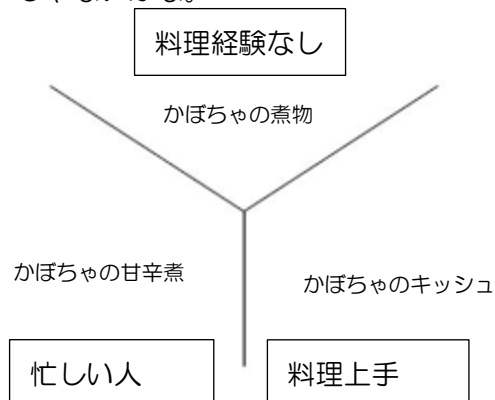
○チラシにどんな情報が載っていますか。

- A のチラシには「栄養」、「味が美味しい理由」、「美味しい食べ方」、「育てている写真」「写真」などが載っている。
- B のチラシには「美味しく調理する秘訣」、「味が美味しい理由」「写真」などがあるね。

3-1 (レシピグループ)

○グループごとに視点に合う料理を分類しましょう。

- 「料理経験なし」の人には、「かぼちゃの煮物」だね。レンジで加熱するだけだから簡単だよ。火も使わないから安心。
- 「忙しい人」には、保存がきく料理がいいんじゃないかな。だから作り置きができる「かぼちゃの甘辛煮」だね。
- 「料理上手」な人には「かぼちゃのキッシュ」だね。好きな具材を選べるからレパートリーも豊富で栄養価も高そう。
- 「和食」のごぼう料理と言ったら「きんぴらごぼう」が定番じゃないかな。



3-2 (チラシグループ)

2-2で調べたことを基に自分たちのチラシに載せる情報の視点を決める

○グループごとにチラシに載せる情報の視点を絞りましょう。

- チラシを何枚か見てみると、「味の美味しさの秘密」は絶対に外せないね。
- 「栄養」や「美味しい調理方法」もあった方が魅力が伝わると思う。
- チラシには載っていなかったけど、「実際に食べてみた人の感想や口コミ」も載せると美味しさが伝わると思うよ。

○ノート・スクールで配付し、どんな情報が書かれているか書き込ませる。

★情報の内容が分かっている。

※ロイロノート・スクール，行動観察

○Y (X) チャートを使って2-1で決めた視点に沿ってこれまで調べてきた料理を分類させる。

○活動が滞っているグループが参考にできるように、大画面にロイロノート・スクールの画面を映し出す。

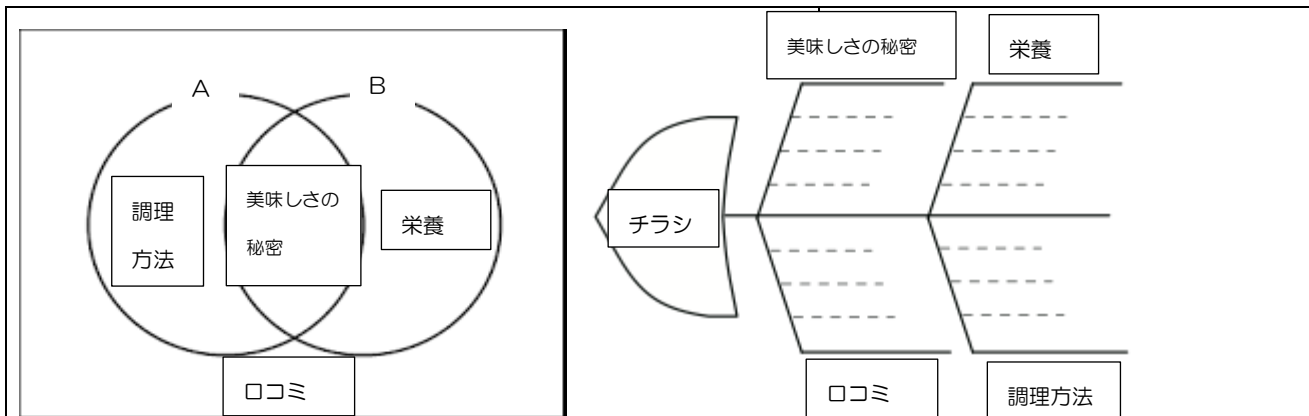
★視点を決めて情報を分類している。

※ロイロノート・スクール

○目的に合わせて情報を整理することができるように思考ツールを使って、チラシに載せる情報の視点を各グループで決めさせる。

★情報を分類する視点を決めている。

※ロイロノート・スクール



4 グループごとに活動結果を交流する。

○グループごとに、決まった内容を発表しましょう。

(レシピグループ)

- 僕たちのグループは、「かぼちゃのレシピ集に載せる料理」を考えました。「料理経験なし」、「料理上手」、「忙しい人」の三つの視点で分類しました。「料理経験なしの人」には、材料の少ない簡単な料理、「忙しい人」には、保存がきいてできるだけ時間のかからない料理、「料理上手な人」は、栄養バランスを考えて具材が豊富な料理を選びました。分類してみると、情報を分類するとそれぞれのレシピのよさが分かりました。

(チラシグループ)

- 私たちのグループは、「ごぼうのチラシに載せる情報の視点」として「栄養」、「育て方」、「味の美味しさの秘密」に決めました。特にいいなと思った視点は「味の美味しさの秘密」です。なぜなら、美味しさの秘密には作っている人の思いや育てる時の工夫があって、より魅力が伝わると思ったからです。視点を定めることでチラシを読む人にも内容が伝わりやすくなると思いました。

5 集めた情報を分類したり再度情報を収集したりする。

6 本時の学習を振り返り、今後の活動の見通しをもつ。

○「学びゲット」で振り返りをしましょう。

- 思考ツールを使うことで、情報の分類をすることができた。視点を決めると情報を分類しやすいことが分かった。
- 今まで自分たちが調べてきた情報だけでは、視点に合うものがあまりなかったので再度情報収集する時間を設けた。その時間のおかげで視点に適した情報を見付けることができた。

○発表の参考にできるよう、話型を掲示しておく。

○視点を決めて情報を分類したり伝えたりすることのよさを考えさせる。

○今後の学習の見通しをもって学ぶことができるよう、「学びゲット」に本時の自らの学習状況を書かせたり、必要に応じて計画の修正をさせたりする。